

【自動車盗難の現状と対策】

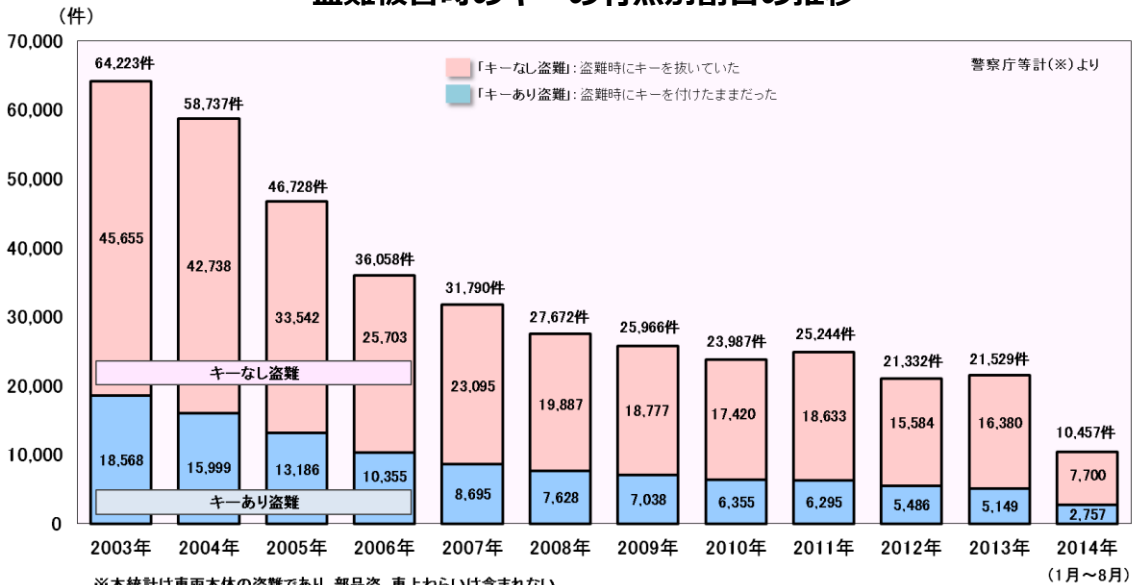
○盗難被害時のキーの有無別割合の推移

「キーなし盗難」の割合は2003年以降7割を超えており、この原因は組織的な窃盗グループの犯行が後を絶たないことによるものと考えられます。車から離れる際、鍵を掛けることは基本的な対策ですが、窃盗グループの犯行に備えるためには、それだけでは十分な対策とは言えません。

イモビライザやバー式ハンドルロック、センサー式警報装置、GPS追跡装置を設置するなど、自ら積極的に対策を講じるとともに、**駐車場対策**を講じることが大切です。

また、自動車本体だけでなく、**カーナビゲーション・システム(以下「カーナビ」という)の盗難対策**を講じる必要があります。

盗難被害時のキーの有無別割合の推移



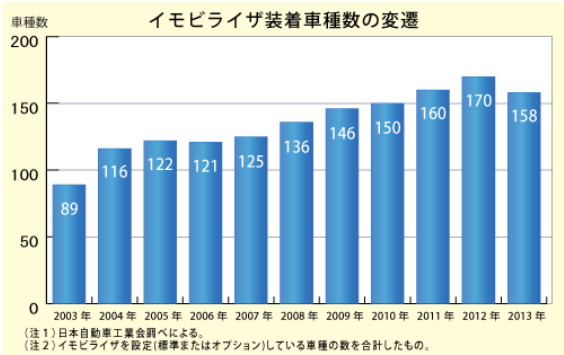
※本統計は車両本体の盗難であり、部品盗、車上ねらいは含まれない。
2008年から2012年までの数値は、統計に誤りが生じており現在精査中であるため、2014年8月1日現在、判明している統計をもとに作成している。
よって、2008年から2012年の「キーあり」、「キーなし」の合計数と認知件数は一致しない。

1. 盗難防止に有効なイモビライザ

イモビライザ装着車(オプション設定を含む)の車種数(乗用車)は、2013年現在、158車種に上ります。2003年と比べると、大幅に増加しています。

イモビライザは、自動車盗難を防止する上で有効な盗難防止装置のひとつです。新車を購入する際にはイモビライザの装着を呼びかけています。

【普及状況】

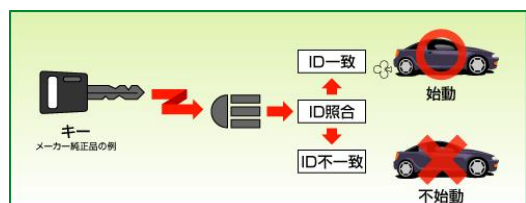


●イモビライザって？

キーに内蔵されたトランスポンダから出される複雑な暗号(IDコード)を車両本体内のコンピュータで照合し、正規のキーと判定されないとエンジンが掛からない盗難防止装置(注)。キー自体の機能と電子的な暗号のダブルロックでクルマを守ります。

(注) メーカー純正品の例。その他、市販の後付けタイプもあります。

【仕組み】



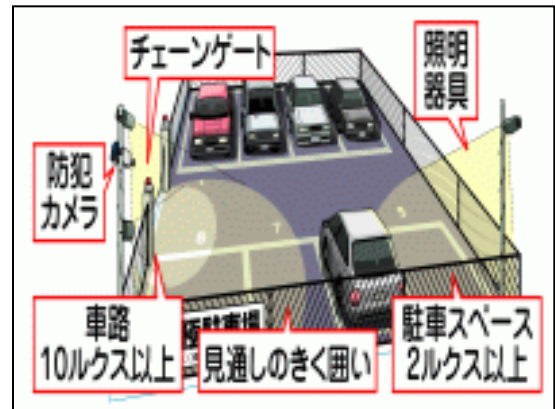
2. 駐車場対策

警察庁データによると、自動車盗難の発生場所は、月極駐車場＝23.0%※、住宅の駐車場＝16.6%、路上＝5.6%※となっています。月極駐車場は夜間も明るく防犯対策の整った所を選び、自宅駐車場には防犯灯や防犯カメラなどを備えましょう。また外出時の路上駐車はやめて、明るく監視の行き届いた駐車場を利用する心がけも大切です。

※2013年データ（警察庁調べ）

狙われにくい駐車場の特徴をご紹介します。

- ①明るく見通しが良い
- ②防犯カメラが設置され、場内に死角がない
- ③夜間でも明るい照明やセンサーライトが設置されている
- ④出入口にゲートが設置されており、関係車両以外は侵入できない



3. カーナビ盗難対策

警察庁統計によると、2013年の部品ねらい認知件数は45,981件でした。部品ねらいの主な被害品としてはカーナビが挙げられます。カーナビ盗難を防ぐために、以下の対策を呼びかけています。

- ①取り外し可能なカーナビは自宅に持ち帰る
- ②固定式のカーナビは盗難防止ネジを活用する
- ③カーナビ購入時にはセキュリティコード機能が搭載された機種を選ぶ
- ④車両を離れるときは、取り外しできないカーナビにはカバーをかける（カーナビの機種を特定できないことから、犯人が盗みづらくなります。）
- ⑤カーナビの保証書類は車外の場所に大切に保管する

また、カーナビ購入後にユーザー登録を行うことで、盗品カーナビの転売が難しくなり、盗品カーナビ流通市場の縮小が期待できます。

